

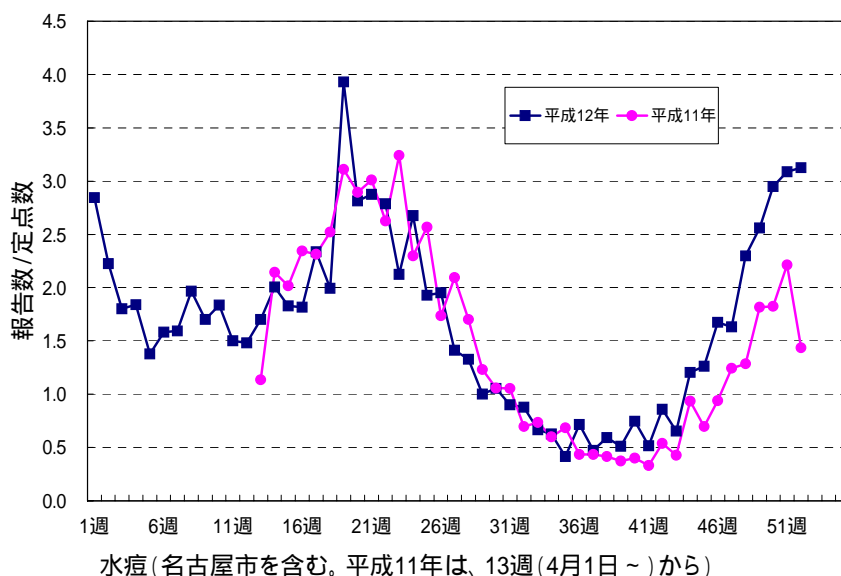
# 愛知県感染症情報

平成 12 年第 52 週 ( 12 月第 4 週 )

( コメント )

インフルエンザに散発が見られます。

水痘及び感染性胃腸炎は、いずれも流行中です。



( 先生方からのコメント )

- 尾張西部地区
  - ・ 5 歳男児ムンプス、ワクチン歴あり。  
( 一宮市 あさのこどもクリニック )
  - ・ 感染性胃腸炎と水痘が流行。  
( 一宮市 後藤小児科医院 )
  - ・ インフルエンザ A 迅速反応 ( + ) 男 2 名、女 10 名  
病原性大腸菌陽性者 O-1 4 名 ( 4 歳男、6 歳男、9 歳女、14 歳男 )  
O-28ac 1 歳女  
マイコプラズマ抗原精密測定 ( 咽頭内 ) 陽性者 2 歳男  
( 尾西市 城後小児科 )
  - ・ 感染性胃腸炎、水痘の流行が続いております。  
( 江南市 みやぐちこどもクリニック )
- 尾張東部地区
  - ・ 相変わらずウイルス性胃腸炎 ( ロタ陰性 ) が多い。  
細気管支炎 2 例 ( 11 カ月男、1 歳女 )  
( 瀬戸市 津田こどもクリニック )

- ・ 手足口病がまだ認められました。（3歳男児で伝染性紅斑も合併）  
百日咳（2歳女）。ワクチン未接種。中耳炎合併するも経過は良好。  
インフルエンザはほとんどみられません。  
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
- ・ 感染性胃腸炎と急性気管支炎大流行中。ヘルパンギーナ、ムンプスもみられます。  
（春日井市 かちがわ北病院）
- ・ インフルエンザ A 型年内はほとんどいない。ロタ胃腸炎もなし、他のウイルスによる胃腸炎多し。細気管支炎多し。  
（小牧市 小牧市民病院小児科）
- 西三河地区
  - ・ マイコプラズマ（×10240以上） 5歳  
（岡崎市 花田こどもクリニック）
  - ・ 病原性大腸菌 0-1（+） VT（-） 1歳女  
カンピロバクターと病原性大腸菌 0-1（+） VT（-） 3歳男  
（幸田町 とみた小児科）
  - ・ 病原性大腸菌 O-6（+） 4歳男、O-1（+） 7歳男いずれも VT1・2（-）  
（岡崎市 にいのみ小児科）
  - ・ 水痘、ムンプス多いです。  
（碧南市 永井小児クリニック）
  - ・ 学童の嘔吐が減り、乳幼児の下痢が増加。  
（西尾市 やすい小児科）
  - ・ 胃腸炎が依然流行。今週は成人が目立ちました。  
（西尾市 山岸クリニック）
- 東三河地区）
  - ・ 年末に感染性胃腸炎が再度増えました。  
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）
  - ・ Rota（ロタ）胃腸炎 第1号（12/27）  
（蒲郡市 蒲郡市民病院）
  - ・ 2から3ヶ所の保育園にて水痘が流行し、広がっています。  
（田原町 かわせ小児科）

( 1 ~ 3 類感染症の発生状況 )

腸管出血性大腸菌感染症患者 2 名。

- ・ 豊川保健所から報告の 57 歳女。12/23 発病、12/23 初診、12/27 診定。菌型は、O-157 VT1・2 ( + )
- ・ 豊川保健所から報告の 10 歳男。12/27 発病、12/31 初診、12/31 診定。

( 全数把握の 4 類感染症の発生状況 )

レジオネラ症患者 1 名。

50 週 ( 12 月 11 日 ~ 12 月 17 日 ) の 4 類感染症の全国状況

水痘の定点当たり報告数が例年に比べかなり多くなっており、新潟県で定点当たり報告数 5.8 、山形県で 5.5 、宮崎県で 5.1 となっているほか、北海道・東北地方、奈良県、和歌山県などでも定点当たり報告数が多くなっている。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は例年の同時期に比べやや多くなっている。麻疹は例年の同時期と比べ定点当たり報告数がかかなり多くなっており、高知県、奈良県、大分県、鹿児島県、沖縄県、北海道などで患者報告数が多くなっている。感染性胃腸炎は前週に引き続き患者数が急増しており、1999 年に次ぐ定点当たり報告数となっている。とくに定点当たり報告数が多くなっているのは鳥取県 ( 32.6 )、福岡県 ( 30.8 )、山形県 ( 28.9 ) などである。インフルエンザの活動性はまだ低く、全国平均で定点当たり報告数 0.27 となっている。

( Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報 )

2000 年 12 月 1 日号 (75 巻 48 号)

エボラ出血熱続報：ウガンダ。11 月 24 日時点で 337 例 (死亡 121 例)。地域集積が強くマンディ地区で新しく確認された 4 例は全例地区初発例の接触者で地区予防対策実施以前の感染例であった。WHO はウガンダ出入国旅行者の制限は勧告していない。

コレラ：ソマリア。11 月 15 日時点で 272 例 (死亡 14)。コレラビブリオ小川型で半数以上が小児。南アフリカ。11 月 27 日時点で 5,876 例 (死亡 35)。

世界のエイズ(2)。2000 年。第一報に続きエイズ報告数の年齢別、性別、感染源別の各国報告。問題は途上国の最も多発していると思われる地区の調査報告網の不備で、途上国の届出数は実際の患者数の 10% と推定される(先進国では 90%)。各地区の状況ではサハラ南縁諸国では 90% 以上が異性間性交渉、8% が先天感染であり、南北アメリカでは 64% が異性間性交渉、22% が同性愛者、6% が薬剤静注常用者 (IDU)、5% が先天感染、アジアでは 69% が異性間性交渉、11% が同性愛者、16% が IDU で 2% が先天感染、欧米先進工業国全体では 33% が異性間性交渉、37% が同性愛者、27% が IDU、2% が先天感染、東欧では 29% が異性間性交渉、27% が同性愛者、35% が IDU、2% が先天感染となっている。男女比はサハラ南縁諸国では差がないが他の地区では 70% ~ 80% が男性となっている。

リフトバレー熱：イエメン。00 年 9 月、エル・ズラハ地区で発生 (前報告参照)。臨床的には突然の高熱と頭痛、出血、黄疸、網膜炎と神経系合併症。家畜の死亡が同一地区で多発。当局は媒介蚊対策と家畜の移動禁止など実施中。

インフルエンザ：本年 11 月。フィンランド：A (H3N2) と H1N1。フランス：A (H1N1)。英国：A (H1N1)。

11 月 24 日 - 30 日届出疾患：コレラ。コンゴ、マダガスカル、ソマリア。

2000 年 12 月 8 日号 (75 巻 49 号)

ポリオ：ドミニカ。7 月 12 日 - 11 月 18 日、19 例の急性弛緩性麻痺 (AFP) が発生。16 例は 6 歳以下で 14 例はワクチン接種歴がなく、5 例は不完全接種であった。患者から分離されたウイルスは 1 型、ウイルスの塩基配列は 97% 接種生ワクチン株と同一であった (通常生ワクチン接種者から分離されるポリオウイルスの塩基配列の同一性は 99.5%、一方強毒野生株感染患者からの分離野生株の同一性は < 82% である)。長期にわたり野生株が常在していた地区ではワクチン普及で野生株による AFP の発症が消失した後もこうした株による患者発生はありうるので当局によるワクチン接種の継続とサ・ベイランスの強化と同時に同国への旅行者に対するワクチン接種が勧告されている。

ポリオ：西太平洋地区における野生株流行の根絶宣言。00 年 11 月 29 日、京都において WHO 西太平洋地区ポリオ野生株根絶宣言が発表された。同地区の最後の例は 97 年 3 月、カンボジアの 1 例で根絶努力 (ワクチン接種率向上、AFP 届出徹底とウイルス検査整備、輸入例対策、多国間協力) の結果の賜であるが、99 年 10 月には中国で輸入野生株による発病例 (ワクチン未接種者) あり、さらに対策の努力が必要である。

ポリオ：カペ・ベルデ (西アフリカの大西洋の島国)。本年 8 月 16 日 - 10 月 17 日 33 例 (死亡 7)。1 型野生株。WHO は西アフリカ旅行者にワクチン接種を勧告。

ポリオ：世界各国における届出数一覧表。

インフルエンザ：11 - 12 月。ドイツ、イスラエル、ポルトガル、英国 A H 1 N 1。12 月 1 日 - 7 日届出：コレラ。ミクロネシア。

明けましてお目出度うございます。本年もこれまで同様よろしくお  
願い申し上げます。今日から三学期、厳しい寒さの中で小学生達の元  
気な声が響いています。いつも貴重な情報を有難うございます。昨年  
12月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：インフルエンザの発生はまだ報告をいただいでいま  
せんし、集団発生の報告もありません。ウイルス分離例もほとんどな  
く、迅速診断キットでも陰性例が多くて落ち着いた状況ですが、冬休み  
明けと共に例年なみの流行が始まるかも知れません。各地区の先生方  
からのご報告をお待ちしております。ちなみに分離されている株はワ  
クチン類似とのこと。ワクチンの有効性が期待されます。市内全域で  
ウイルス性の胃腸炎・嘔吐下痢症が発生しています。乳幼児を中心と  
したロタウイルス陽性の下痢症も少数例にみられますが、主体となっ  
ているのはロタウイルス陰性例で乳幼児や年長児から成人まで年齢巾  
が広く(時に家族内発生あり)、嘔吐のつよい例が主体で下痢は軽い  
ようです。全体に軽症が多いようですが、脱水で入院の必要な例もあ  
ります(第一日赤有吉先生、名鉄病院宮津先生、千種区今枝先生、三  
菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水  
野先生)。RSウイルス感染症を主体とした細気管支炎・気管支炎・  
肺炎は減少した地区と相変わらず多発している地区がありますが、要  
入院例が目立っています(第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、三  
菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生)。その他、溶連菌  
感染症(名鉄・宮津先生、国立・伊藤先生、三菱・岩間先生、労災・  
山田先生)、無菌性髄膜炎とムンプス髄膜炎、麻疹が目立つ(第一日  
赤有吉先生)、EBウイルス感染症(名鉄・宮津先生)などのお手紙  
でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎が多発中で溶連菌  
感染症散発中、川崎病と手足口病各1例、年末にインフルエンザ様疾  
患散発、江南市昭和病院西村先生と愛北病院小児科からは嘔吐を主体  
とした感冒性嘔吐下痢症増加中で溶連菌感染症、肺炎による入院、川  
崎病、瀬戸陶生病院山口先生からは小型球形ウイルスらしい胃腸炎多  
発中でロタウイルス感染散発、RSウイルス感染症(細気管支炎、肺  
炎)の入院が目立ち(要呼吸管理3例)、原因不明脳症1例、常滑市  
民病院上田先生からは嘔吐下痢が主症状のウイルス性胃腸炎が大流行  
(要入院多数)、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎、ウイルス性細  
気管支炎、仮性クル-ブ、市立半田病院中島先生からは麻疹がコンス  
タントにあり、普通感冒、感冒性胃腸炎が多いがロタ、インフルエン  
ザウイルスは共に陰性とのご報告です。

3. 三河地区：安城更生病院小川先生からはウイルス性嘔吐下痢症が  
多発し成人も多く、肺炎の入院例がやや増加、刈谷市田和先生からは  
嘔吐症とムンプス、溶連菌感染症散発、碧南市永井先生からは溶連菌  
感染症、ムンプスが目立つ、豊橋市宮澤先生からは学童の嘔吐症、乳  
幼児嘔吐下痢症、気管支炎が目立つとのお手紙でした。

4. インフルエンザの流行期です。先生の地区のインフルの年齢、主  
症状(最高体温と持続、二峰性)、ワクチン接種状況など是非お知ら  
せください。有難うございました。